

令和元年度 第1回浦安市文化財審議会議事録（議事要旨）

- 1 **開催日時** 令和元年5月15日（水） 午前10時～12時00分
- 2 **開催場所** 郷土博物館 視聴覚室
- 3 **出席者**
（委員）菊池委員長、大塚副委員長、吉田委員、明保委員、穎原委員、大村委員、森田委員
（事務局）高梨生涯学習部次長、金子館長、島村、尾上、袖山（記）
（傍聴人）なし

4 議 事

- (1) 平成30年度 浦安市文化財審議会の報告について
- (2) 令和元年度 浦安市文化財審議会の年間計画について
- (3) 平成30年度 郷土博物館・文化財住宅の利用状況及び事業報告について
- (4) 令和元年度 郷土博物館の年間計画について
- (5) 浦安市郷土博物館展示リニューアル基本構想について

5 会議経過

会議に先立ち、人事異動に伴う職員紹介を行った。開会后、菊池委員長、高梨生涯学習部次長があいさつを行った。

(1) 平成30年度 浦安市文化財審議会の報告について

配布資料に基づき、事務局より説明した。
主な質疑・応答については、下記のとおり。

（委員長）平成30年度第4回委員会開催時に、清瀧神社の改修について現地視察を行ったが、その後の経緯・経過はどうか。

（事務局）覆屋の本殿部分・拝殿部分の接合部について業者に確認したところ、雨除けがついていて本殿・拝殿に影響が出ないようにしたとのことである。また、ガラスを張るかということについては、見学者にそのまま見ていただくためにガラス面は張らないことに決定したという。詳細を再度確認し報告したい。

(2) 令和元年度 浦安市文化財審議会の年間計画について

配布資料に基づき、事務局より説明した。
主な質疑・応答については、下記のとおり。

（委員）旧醍醐家茶室についてはどのようなになっているか。

（事務局）部材を保管している段階で、移築場所の検討中。

（委員長）茶室に関しては市の年度計画内に位置づけられているのか。

（事務局）三か年の実施計画の中に茶室の移築について取り上げられており、計画

として取り組んでいく。まちづくりとの関係のなかで移築場所・復元の形について決定していく。

(委員長) 場違いな場所に置くよりは、まとまって集約できればよい。

(委員長) 清瀧神社改修について、審議委員会で現地視察はするのか。

(事務局) 現時点では考えていない。

(3) 平成30年度 郷土博物館・文化財住宅の利用状況及び事業報告について

配布資料をもとに、事務局より説明した。

主な質疑・応答については、下記のとおり。

(委員) 文化財住宅の入館者数について、学校で見学した子どもなども含まれているのか。

(事務局) 含まれている。

(委員) お酒落保存会は団体が独自にやっていて、博物館は場所を貸しているだけなのか。年齢層が高くなっていることを考えると、子どもや若い世代を入れていければよい。

(事務局) 補助金交付団体であり、博物館としてのバックアップには力を入れている。また、子ども向けのチャレンジカードにお酒落体験が含まれており、学校への出前授業などにも協力いただいている。

(委員) 宿泊体験について、博物館としてもスタッフも大変な中とてもよくやっていると思う。

(委員) 宿泊体験当日、子どもはどのように過ごしているのか。

(事務局) おもちゃやゲームなどの持ち込みはなく、文化財住宅で協力して過ごすことが目的。子どもなりに工夫して夜を過ごしたり、銭湯に行ったりする。

(委員長) 宿泊体験は大変ではないか。

(事務局) 熱中症、ぜんそく、アレルギーなどが主な注意点。事前の体調チェック、緊急連絡先を控えるなどの対応を、教員主導で行っている。

(委員長) 昔の暮らしについて、学校の教員や博物館スタッフといった教える側も実体験を伴わない世代に今後なっていく。次世代に引き継いでいく必要がある。

(委員) 文化財活用の体験について、事前・事後学習などは行っているのか。

(事務局) かまどの日については体験そのものを重視している。宿泊体験は事後アンケートを取り、班内で発表を行っている。

(委員長) 宿泊体験は大変だとは思いますが、十分に気を付けて念には念を入れてやってほしい。

(4) 令和元年度 郷土博物館の年間計画について

配布資料をもとに、事務局より説明した。

主な質疑・応答については、下記のとおり。

- (委員長) 豊受神社の大銀杏の修復について、写真などあるとわかりやすい。
(事務局) わかりやすいものを用意する。
(委員長) 11月の写真展について、これまでにない構図の写真はあるのか。
(事務局) 大塚勉氏は浦安の出身で、埋め立て直後の浦安の風景写真を撮影しており、視点は新しくリニューアル時にも使えると思う。初公開となる映像もある。

(5) 浦安市郷土博物館展示リニューアル基本構想について

配布資料をもとに、事務局より説明した。
主な質疑・応答については、下記のとおり。

- (委員長) 文化財審議会とリニューアルの位置関係はどうなっているか。ここで出した意見が他の委員会でも取り上げられるのか。
(事務局) 他の委員会の設置は予定しておらず、学芸員を中心に基本構想を実現化していく。
(委員) 基本構想はよくできており、来館者や非常勤職員アンケートに誠実にやろうという姿勢がよくわかる。博学連携や資料収集に関して非常に成果を上げてきた施設なので、大変だとは思いますがこのままやってほしい、という感想を持った。
(委員長) ものとヒトをつなげる、ということが最近の博物館の傾向であると思う。ボランティアの確保や現スタッフの人数で賄えるのか。
(委員) 博物館で一番印象的であったのが「もやいの会」であった。ボランティアの充実が今後の大きな仕事である。作業を行っている人などが館内にいるとよい。また、「ことばの収蔵庫」はよいコンテンツだとは思いますが何を言っているのかわからないので、解説員がいるとよい。
(事務局) 現在のボランティアメンバーは生業として漁師をしていた最後の世代。舟大工も現在では生業としては成り立たず、後継者づくりは難しい。
(事務局) テーマ展示室は一度作ると直せないなので、フレキシブルになるようつくっていききたい。映像を生かすシステムも検討中。ネット上の収蔵品管理システムも活用したい。
(委員長) デジタル技術も進化している。そういった機器も利用してよりよいものを作ってほしい。
(事務局) 展示装置を作ってしまうとすぐ古くなる。デジタル機器はスマホなどの外の機械を利用して、展示室には実物を多く展示していききたい。農業・農具について展示が少ないという指摘もたくさんあったので、農具も実物を出していききたい。
(委員) 事務局の考えに賛成である。説明に関する部分は図書館との連携を強化するなどして、博物館はものの迫力を伝える場所であることが大切だと思う。また、収蔵庫と展示室の関係、デジタル化はどうなっているか。
(事務局) データベースを作成中。学校用に「郷土活用ボックス」の改良、スマホアプリ「ポケット学芸員」の導入などを予定している。英語解説書も活用していききたい。

- (委員) 浦安の農地についてや、鳥瞰図をもとにしたジオラマがあるとよいと思う。
- (事務局) 展示手法についてはこれから検討する。浦安の農業については、土地とのかかわりを重視してわかりやすい展示にしていく。
- (委員長) アンケート・現場の生の声を聞いて、利用者の目線でやればおのずと成果につながると思う。期待している。

■ 次回の会議

第2回浦安市文化財審議会は、7月17日(水)を予定。

以上をもって、令和元年度 第1回浦安市文化財審議会は、閉会した。